

三重・赤堀城跡

あかほり

南北溝、土墨である。溝埋土及び土墨の下層から土師器・須恵器・灰釉陶器・山茶碗・木簡等の遺物が出土している。

8 木簡の釈文・内容

所在地 三重県四日市市城西町
調査期間 一九九二年(平4)一月~二月

発掘機関 四日市市遺跡調査会

調査担当者 花井千幸

遺跡の種類 城館跡

遺跡の年代 一四世紀~一六世紀

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

赤堀城跡は、大小の河川によって形成された沖積低地の標高四m前後のところに所在する。急速に市街地化が進み、周辺の状況は大きく変わりつつあるところである。過去に二回の発掘

である。過去に二回の発掘
調査が行なわれている。

今回の発掘調査は、地中
送電線新設のための立坑掘
削に伴うものであり、調査
面積は約五〇m²であった。
調査において検出した遺構
は、堀と思われる東西溝、



(四日市)

45×25×3 011

(1)
・「二」
・「嶋」

南北溝の埋土中から出土したものである。形態及び墨書の内容から聞香札の可能性が高いと思われる。

9 関係文献

四日市市教育委員会『四日市市文化財保護年報三 一平成二年度
一』(一九九二年)

(花井千幸)

